広 島 県 感 染 症 発 生 動 向 月 報

［広 島 県 感 染 症 予 防 研 究 調 査 会］
（ 平成22年3月解析分 ）

1　疾患別定点情報

（1） 定点把握（週報）五類感染症

平成22年2月分（平成22年2月1日～2月28日：4週間分）

No	疾　患　名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾　患　名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	612	1.33	13.69	↓	10	百日咳	33	0.11	0.02	↗
2	RSウイルス感染症	246	0.85	0.56	↘	11	ヘルパンギーナ	8	0.03	0.03	
3	咽頭結膜熱	86	0.30	0.33	↗	12	流行性耳下腺炎	341	1.18	0.72	↗
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	295	1.02	1.65	↗	13	急性出血性結膜炎	6	0.08	0.02	
5	感染性胃腸炎	4,614	16.02	10.11	→	14	流行性角結膜炎	65	0.86	0.98	→
6	水痘	444	1.54	1.53	↗	15	細菌性髄膜炎	2	0.02	0.01	
7	手足口病	338	1.17	0.12	↑	16	無菌性髄膜炎	1	0.01	0.04	
8	伝染性紅斑	27	0.09	0.15	↗	17	マイコプラズマ肺炎	11	0.13	0.20	↑
9	突発性発しん	148	0.51	0.54	→	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

（2） 定点把握（月報）五類感染症

平成22年2月分（2月1日～2月28日）

No	疾　患　名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾　患　名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	44	1.91	2.02	↘	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	82	3.90	5.12	↘
20	性器ヘルペスウイルス感染症	25	1.09	0.51	↗	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	35	1.67	1.51	→
21	尖圭コンジローマ	13	0.57	0.46	↗	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.05	0.10	
22	淋菌感染症	21	0.91	0.66	↘						

※「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）
※ 報告数が少数（10件程度）の場合は発生記号は記載していません。

急増減疾患！！（前月比2倍以上増減）

●急増疾患　手足口病（132件→338件）
●急増疾患　マイコプラズマ肺炎（4件→11件）
●急減疾患　インフルエンザ（3,099件→612件）

発生記号（前月と比較）

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増　減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症（週報対象21疾患，月報対象7疾患）について，県内178の定点医療機関からの報告を集計し，作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13，14	19～22	15～18，23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

2　一類･二類･三類･四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾　患　名　(管轄保健所)
一　　類	0	発生なし
二　　類	40	結核〔広島市保健所(20)，福山市保健所(8)，呉市保健所(4)，西部保健所(3)，西部東保健所(1)，東部保健所(3)，北部保健所(1)〕
三　　類	1	腸管出血性大腸菌感染症(O157,O26重複感染)〔西部東保健所〕
四　　類	1	つつが虫病〔西部保健所〕
五類全数	9	急性脳炎(3)〔広島市保健所〕，後天性免疫不全症候群(3)〔広島市保健所〕，アメーバ赤痢(1)〔福山市保健所〕，風しん(1)〔広島市保健所〕，麻しん(1)〔広島市保健所〕

3　一般情報

(1)　麻しん(はしか)について

麻しん(はしか)は古くから知られた感染症で，世界では，いまだ多くの人々が亡くなっています。
麻しんウィルスによって引き起こされる病気で，38℃程度の発熱やかぜ症状がはじまり，時には脳炎を発症するなど重症になることもあります。また，全身の免疫力が低下するため，他の細菌などに感染しやすくなります。このため，肺炎や中耳炎などを合併することもあります。
医療の進歩した現在でも，その重篤性に変わりはなく，発症した場合には死に至る危険性もある重大な疾患で，毎年2月から6月にかけて流行します。

●　麻しんの症状等

- 空気感染･飛沫感染であり感染力が非常に強い。
- 感染後の潜伏期間は10～12日であり，その後に発症する。
- 38℃くらいまで発熱し，その後熱が下がるが，また高熱が出るようになる。
- 症状としては風邪によく似ているので間違えやすい。
- せきが出て発熱。この時期に他の人にうつす可能性が最も高い。
- 2回目の発熱時に顔を中心に発疹がはじまり全身に広がる。

●　麻しんの治療法

麻しんウイルスに対する直接的な治療法はなく，症状を楽にする治療(対症療法)や，合併症があればそれに対する治療が行われます。

●　麻しんにかかったかなと思ったら…

早めに医療機関を受診しましょう。周りに麻しんにかかった人がいて，風邪のような症状や熱が出た場合は，医療機関に電話で「麻しんにかかっているかもしれない」ことを伝えてから受診しましょう。

●　麻しんにかからないために…

麻しんの予防方法は，すみやかにワクチンを接種することが大切です。
これまで麻しんにかかったこともなく，ワクチンを1回も受けたことのない人は重症になり易いのですが，ワクチン接種によって，仮にかかったとしても重症化を予防することができます。
次の定期予防接種の対象となる方は，必ず予防接種を受けましょう。

	麻しん風しんの予防接種を無料で受けることができる方
第1期	生後12ヶ月以上24ヶ月未満の者
第2期	5歳以上7歳未満の者で小学校入学前の1年間
第3期	中学1年生に相当する年齢の者(年度内に13歳になる者)
第4期	高校3年生に相当する年齢の者(年度内に18歳になる者)

※第3期と第4期は平成24年度までの期間限定となります。

第1期から第4期に該当する方は，無料で接種できます。詳しくはお住いの市町へお問い合わせください。

(2)　A群溶血性レンサ球菌感染症について

A群溶血性レンサ球菌感染症は，例年春から初夏にかけて，患者報告数が多くなっています。これから，流行時期に入りますので注意が必要です。

【好発年齢】3歳から6歳までの子供が患者数の半数を占めています。

【感染経路】患者の鼻汁，唾液にふくまれる菌の飛散によって，人から人に感染する感染症です。食品を介する経口感染もあります。

【潜伏期間】1～4日

【症　　状】突然の高熱，咽頭痛，全身の倦怠感などの初期症状で始まり，嚥下痛，頸部リンパ節の腫脹などが見られます。発熱は，通常3～5日で下がり，主要症状は1週間以内で消失します。

【予防方法】患者との接触を避け，普段から「手洗い」と「うがい」の励行を心がけましょう。